

# 令和5年度第1回一宮市総合教育会議 会議録

## 1 日時

令和5年6月26日（月）16時00分～17時10分

## 2 会場

一宮市役所 本庁舎 6階 特別会議室

## 3 出席者

市長 中野 正康  
教育長 高橋 信哉  
教育委員（教育長職務代理者） 浅野 智貴  
教育委員 浅井 衣子  
教育委員 五藤 裕達  
教育委員 高橋 富貴子  
教育委員 青山 裕美  
教育委員 川松 久芳

## 4 事務局（8名）

戸谷行政課長、高橋行政課専任課長、  
村山行政課課長補佐、足立行政課主任  
森教育部長、平野教育部総務課長、  
川延教育部総務課専任課長、櫻井学校教育課長

## 5 傍聴者

なし

## 6 議題

- (1) 「シン学校プロジェクト」について
- (2) その他

## 7 資料

- (1) シン学校プロジェクト
- (2) 各小中学校の校舎等配置図
- (3) 児童・生徒数及び学級数見込み(令和5年度～令和11年度)
- (4) 校舎改築スケジュール

※会議の内容は次項のとおりです。

## 事務局

では、定刻となりましたので、始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。

只今から一宮市総合教育会議を開催させていただきます。

本日の傍聴希望はございませんでしたので、報告をさせていただきます。

それでは会議に先立ちまして、市長からご挨拶を申し上げます。

## 市長

市長の中野です。

今年度の第一回の総合教育会議となりました。

これまで「学校施設のあり方について」を議題として昨年度から何度もやっており、そろそろ一定の方向性を出していきたい、また、一人でも多くの市民の皆様に興味を持ってもらいたいと思い、今日はシン学校プロジェクトというタイトルをつけさせていただきました。

今日は皆様方の貴重なご意見を楽しみにしています。よろしくお願いします。

## 事務局

ありがとうございました。

本日の議題は今、市長から説明があったとおり、シン学校プロジェクトについてでございます。たくさんの意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、総合教育会議の設置に関する要綱第4条第1項に基づき、ここからは市長が議長となります。よろしくお願いします。

## 市長

はじめに、シン学校プロジェクトというタイトルで私から1枚の資料を提出させていただきました。

一宮市は18年前の2005年に一宮市は尾西市と木曽川町と合併して、新しい一宮市になりました。市町村合併は、すごく大きな話で、木曽川町もなくなりましたし、尾西市もなくなりました。平成の市町村合併では、88あった県内市町村が54になったのですが、そのうち市でなくなったのは尾西市だけです。ですので、当時の谷市長はすごく苦労されたのではないかと思います。そういうこともあって、国が合併特例債の7割を償還してくれるという形での支援は当時、旧一宮市や旧尾西市、旧木曽川町の人の交流を円滑化するという目的で、箱モノといわれる施設整備や道路にあてられました。その結果、体育館や駅ビル、生涯学習センター、公民館などが順次建て替えられていき、今では、一宮市の公民館は、近隣同規模市町村よりも立派で新しいものとなりました。一方で、小中学校の施設はというと、近隣同規模市町村よりも明らかに古くなってきております。ですので、次の時代は小中学校の施設を新しくしていきたいと思っております。

とはいえ、それもお金のかかることですので、決して簡単なことではありません。と

いうのも、この分野においては、国からの補助金が非常に少なく、補助率は基本的には1/3程度しかなく、実勢価格だと1/4か1/5程度しかない状況です。その点については、我々も全国市長会などで声をあげていて、少しずつ上げてはもらっているのですが、最近では文科省も工夫をしていて、義務教育の施設だけではなく公民館との併設や体育館が地域に開かれているなど、公に公開されているのであれば、補助率を1/2にするというようなルールを設けています。ですので、そういった制度も使って補助金を活用できればと思っております。

つづいて、対処方針の二つ目の進め方ですが、今回の件は50年、60年に一度のものになるわけですから、これを機に大きな議論をしていただきたいと思っております。たとえば、先ほどお話しした文科省が打ち出している開かれた学校を実現しようとしたときに地域に開かれた施設との合築ということができるとかできないのかとか、これまでのような30人や40人の生徒が一方通行で先生の話聞いてメモをするというような教育はこれから変わっていくでしょうから、それを踏まえて施設を整備する際にどういった点に気を付ければよいかなどを含めて、大きく議論していければと思っております。

また、時間軸のところについても、詳しくは事務局からも説明があると思いますが、20年くらいかかってしまうのかなと思います。市内の公共建築事業に関わってくれる業者さんも限られていますので、しっかりと時間軸を気にしながら考えていけばよいと思いますので、よろしくお願いします。

また、2~4年前の話になりますが、新制服プロジェクトが良くてですね、制服に限らず併せて色々な規制緩和を行いまして、靴の色や、防寒着などの学校の生活の在り方を学校だけでなく父兄さんも交えて議論をして変えてくれました。ですので、それに続いてこのシン学校プロジェクトについても、真の教育として何が望ましいのだろうかというところも含めて議論を発展させていければよいなど期待しております。

私からは以上となります。

では、改めて今の小中学校の状況を事務局から紹介させていただきます。よろしくお願いします。

## 事務局

私から資料についてご説明させていただきます。

資料1をまずご覧ください。2023年時点の小学校42校、中学校19校の校舎等の状況になります。濃いオレンジは、築60年以上経過している校舎等です。黄色は、築50年以上築60年未満、薄いオレンジが、築40年以上築50年未満の校舎等になります。水色はプールになります。ほとんどの学校の校舎や屋内運動場に色がついていますので築40年以上の校舎等が非常に多くなっています。

次に資料2をご覧ください。令和5年度から令和11年度までの各学校の児童・生徒数及び学級数の推移です。令和5年5月1日現在の未就学児の人口による推計に基づいて作成してあります。ほとんどの学校が児童・生徒数及び学級数が減っていく見込みで

ざいます。

最後に資料3をご覧ください。校舎改築のスケジュールでございます。今年11月にキックオフミーティングを実施して、プロジェクトを進めていきます。学校の校舎をすべて建て替えるのか、また一部を建て替えるのか、複合化していくかなど、さまざまな案が考えられます。市の建築担当課で進めるのか、またはPFIなどを活用するかによって一度にどのくらいの学校を改築できるかは変わってきます。第1期プロジェクトの期間については、解体工事と建設工事の時期が重ならないように考えますと、10年を超える期間が必要ではないかと考えております。しかしながら、早く学校が新しくできるようにできるだけ早く進めていきたいと考えております。

資料の説明は以上です。

## 市長

今年度の11月にキックオフミーティングという形でいよいよ一宮市は小中学校の校舎の建て替えを本格的に行うぞということを出して行って、具体的な議論に入るのは、令和6年度からそれぞれの地域で行うタウンミーティングの中でということになるかと思えます。

また、一部の学校は建て替えをするけれども、一部の学校は校舎を壊すだけということになると、その線引きは難しく、何らかのルールが必要になってくると思われれます。

具体的な話を進めだすと、古くなっている校舎ごとの面積、子どもたちの数の将来予測や、土地の面積のうち実際にどのくらいが使えるか、建築可能かなど、様々な要素を考慮していかなければならないと思えます。その際には、保育所の入所の優先順位付けにAIが活用されているように、AIが活用できるような気がします。

## 事務局

今後、尾西の給食室をどういう風に変えていくかということもありますし、日影規制などの建築基準法上の問題もありますから、そういったことも含めて総合的に考えていかなければなりません。また、せっかく市民の方からこんなものができるんじゃないかというような意見をいただいても、建築家などのプロの目線で見ると不可能ということもありうると思えますので、市民の希望とプロの目線をうまくすり合わせていくことが必要になるかなと思えます。

## 市長

教育委員の皆さんもご子弟が通われている学校などについて何かご意見はないでしょうか。皆さんのご意見によって、新たな気付きを与えていただけると思えますので、地元の学校のここが強いとかここが弱いとか、ご意見を頂戴いただければと思います。

## 委員

私は奥町連区に住んでおりますが、奥町連区は一小一中なので、現在もすごく良い環境で学ばせてもらっております。ただ、将来的には奥町連区で小中学校一貫校ができるというのが私の夢でもありまして、今回のプロジェクトによって、その夢が実現できる

のではないかと期待しております

また、私は、箱モノは見た目も重要だと思っておりまして、子どもにはこんな学校に通ってみたい、親にはこんな学校に通わせたいと思ってもらい、成人した後には、一宮市の学校で学んでよかったと、自分の子どもも一宮市で学ばせたいと思ってもらい、その思いを繋いでいくことによって、一宮市の人口を増やしていければよいと思っております。今後、一宮市も人口が減少していくという予測も出ていますし、どこの市町村も高齢化が課題だと思いますので、せっかく新プロジェクトを立ち上げるのであれば、教育の観点から人口を増やして、活気あふれる街にしていければよいと思っております。

**市長**

ありがとうございます。

一宮市の小中学校の校舎のデザインは現在、ほとんど同じでしたよね。

**事務局**

旧の一宮市をみますと、大和西だけ後から建てているので、例外的に凝っているのですが、他はほとんど同じデザインとなっております。

**市長**

あまりお金をかけずに効率性を重視したデザインとなっているんですね。

小さい自治体だと、小中学校の数が少ないので凝ったデザインにするところもありますよね。

ところで、小中一貫校にするのであれば、校舎を現在の小学校の敷地に建てるのが良いのでしょうか、中学校の敷地に建てるのが良いのでしょうか。

**事務局**

中学校が良いのではないのでしょうか。

**委員**

高層化して、エレベーターやエスカレーターを設置して、学校に見えないような校舎にすると良いのではないのでしょうか。そこに併せて公立保育園も併せて設置できれば良いと思います。

**市長**

合築の議論はこれから子ども家庭部と一緒に議論を進めていくんですよね。

他の委員の方はどうでしょう。

**委員**

神山小学校も校舎が古くなっているので、神山小学校と中部中学校を小中一貫校にして、神山小学校の敷地に仮設校舎を建て、中部中学校をビル化するというのはどうでしょうか。ビル化ができれば、民間の託児所や保育園を入れられるし、さらにエレベーターも設置できれば、車いすの子なども通えて、特別支援学級なども編成できるようになり、総合的な学びができる場所となるのではないのでしょうか。

**市長**

中部中学校の学区には末広小学校もありますよね。

学校の問題は地域住民との合意形成が一番難しいので、末広小学校の学区の住民との合意を形成するのが課題になりそうですね。

#### 教育長

神山小学校は現在、児童数が1000人を超えており、適正規模よりも大きくなりすぎているというのが現状です。ですので、神山小学校を併せるとなると、さらに大きくなりすぎてしまうので、少し難しいのかなと思いますね。

#### 市長

神山小学校なんかは今後もさらに増えそうですね。

そう考えていくと、小中一貫が実現できる可能性があるところは限られてきますね。

#### 事務局

一小一中のところの主な候補になるのかなと思います。

#### 委員

さきほどから小中一貫という話が出てきていますが、一宮市には保育園が53園あって、どの園も園舎が古くなってきており、不自由しながら保育を行っているという現状があります。また、これは文科省も言っていることですが、現状、保・小の接続や小・中の接続に問題があって、例えば、保育園から小学校への接続がうまくいなくて学力がつかないとか、中学校に入学して不登校になるだとかといった事態が生じているそうです。

ただ、これらの問題は、保・小・中の建物を一緒すれば、解消できると思います。

段差のない教育が可能になり、教育効果が高いと説明できれば、市民の方々もご理解していただけるのではないのでしょうか。また、遅い時間にお迎えに行くお母さんが保育園に行って、児童館に行ってというのは大変なので、一つの敷地にまとまっていると、働く世帯にとっては便利だと思います。そして、そういった形で一宮が子どもを大事にしている、働く世帯を大事にしているというようなPRにもなると思います。

#### 市長

たしかに義務教育である小中学校の接続というのはわかりやすいですが、その手前の保育園から小学校への接続というところに一宮市は力を入れているんだよ、応援しているんだよというのを打ち出せばプラスに響きそうですね。

#### 事務局

そういった意味では保育園はもちろんですが、児童クラブも併せて設置できれば、保護者にとっての利便性が向上しそうですね。

#### 市長

ここ数年間は放課後児童クラブを小学校の敷地内に建てるということは進んでいますよね。萩原小学校もそうでしたよね。

#### 事務局

萩原もそうですし、千秋、末広もそうですね。

## 市長

とはいえ、42 小学校のうちはまだまだ少数なのかもしれないですけど、これから増やしていけると良いですね。

## 事務局

現状は建物を借りている施設もありますので、これからも自前で学校の敷地内に建てることを検討していきたいと思います。

## 委員

児童・生徒数の推移の表を見ますと令和 11 年度には小中学生が 4,000 人ほど減ることになっており、このペースが続けば、建て替えが終わった頃には相当な人数が減ることとなると思います。そうだとすれば、現状の 61 校の小中学校を今の建物よりも小さくして建て替えていくことを目指すのか、合併などをして学校数を減らしていくことを目指すのかというところを考えていかなければならないのではないのでしょうか。

一方で、これは不動産関係の方からもよく聞く話なのですが、一宮市はベッドタウンですので、調整区域を外して家を建てられる場所が増えれば、引っ越しをしてくる人がものすごく増えることになるのではないかと思います。その場合、家を建てるという方は、これから家庭を築く方が多いので、子どもの数が一気に増えることになり、そうすると、61 校残したまま、1 校 1 校の規模感も維持していくことが必要になるのかなと思います。

グリーンサンドへの変更やトイレの改修も、先を見据えることができれば、ストップをするなどの手を打つこともできるのではないかと思います。

## 市長

貴重なご意見ありがとうございます。

本当におっしゃるとおりで、令和 11 年度まででなく、もっと先まで児童・生徒数の推計が出せるといいですね。

## 事務局

10 年間で建て替えられる学校というのは非常に数が限られておりまして、一つの校舎にだいたい 10 億円くらいかかってしまいますので、10 年間で建て替えられるのは 10 校とかになってしまうのではないのでしょうか。実際、市内には 61 校もありますから、古いところからやっていくべきという部分と市としての特色を出していくという部分を並行してやっていく必要があると思います。

また、調整区域をどうするのかというところも考えていきますと、教育部だけでなく、他の部も含めて検討していく必要がありますので、内部の検討委員会を立ち上げる準備を総務課の方で進めております。その中で、まずこの 10 年間の中で動けるところを考えていこうと思っております。

外観については、統一したデザインにすれば、内部で検討していくことになりまして、特色あるものを作っていこうと思うと、設計も施工も一括して発注する方法やアイディ

アを色々聞きながら、一番良いものをピックアップするという方法を採用することになるかと思います。

問題は多岐にわたることになりますので、絞りながらやっていこうと思います。

#### 委員

今までと同じ校舎にしてしまうと、変わっていく一宮は感じられないので、今までと違う建物にした方がよいと思います。

例えば、富士小学校であれば、保育園と一緒にすることを決めて、その上で、どのような公共施設を併設していくのかというのを検討していくというのはどうでしょうか。

また、今後、どの程度人口が増えるかはわからないので、クラスの仕切りはなしにして、フリースペースのようなものを作って、そこで体育などができればよいと思いますし、そこに道具を持ち込めれば、家庭科室とか美術室とか音楽室とかがいらなくなるのではないのでしょうか。何にでも使える場所があれば、ドローン競技会みたいなのができたり、e スポーツの部屋にしたりとか、時代が変わっても対応することができますし、地域交流の場にもできます。

#### 市長

文科省も公民館との共同利用のような開かれた教室の使い方を推奨していますよね。

#### 事務局

公民館との共同利用もありますし、保育園との共同利用もあります。

また、共同利用することにより他の施設が減築されれば補助率も上がります。

他にも、体育館自体をスポーツ関係の会社に貸してしまって、一部の時間帯だけ学校がその体育館を借りるということをやっている自治体もあります。ただ、それをやるには、体育館の利用者のための駐車場が必要になりますし、授業をやっている時間帯に車の出入りがあるということにもなってしまいます。学校が公共交通機関に近ければ、駐車場がいらないということもあるかもしれませんが、一宮市はそういった学校が少ないのでやはり駐車場は必要になってくると思います。とはいえ、駐車場を造るために運動場を減らすということも難しいです。ただ、老朽化したプールをなくして、そのスペースが空けば、そこに駐車場を造るということはあるかもしれません。また、車の出入りが増えれば、周辺住民への影響も考えなければなりません。学校の周辺に住んでみえる方は、文教地区であることを前提に居住されていると思われるので、その点については、特に慎重にならなければならないと思います。

ただ、人口減に対応した校舎づくりが必要であることを踏まえれば、他の公共施設を併設して、まとめていくということが必要になってくると思います。

#### 市長

今年度にキックオフミーティングを行って、いよいよ一宮市も小中学校の建て替えを本格的に行いますというのろしを上げるわけですけれども、その次のタウンミーティン

グはどのような形で進めていくと良いでしょうか。

実際に学校に通っている子どもやその親の意見とその学校を卒業したご年配の方々の意見が食い違い、対立してしまうという話は他の首長からも聞きますので、どの年代の人たちに引っ張っていってもらえるのかというところには注意しなければならないと思います。

#### 事務局

その点については、すごく難しいと思っていまして、どういう形でどのレベルの意見を募集していくのかというのは非常に悩ましいところです。61校についての意見を募集しても、実際にすぐに動き出すのは5校とかになるので、意見を聞いてもらえなかったと思われぬように注意しなければなりません。

#### 委員

小中学校の建て替えをどうするのかということを検討する際には、一宮市がどういうグランドデザインでまちづくりをするのかというのがベースになってくるのではないのでしょうか。全地域を同じように開発できる時代ではないですし、20年、30年間かけて一宮市がどういうまちづくりをしていくのかを決めて、その上でどのように学校を配置していくのかを考えなければならないと思います。

例えば、調整区域を外して他市からの流入を増やし、人口増を目指すのであれば、それがベースになって、どのように学校を整備していけばよいかが決まってくると思いますし、他市からの流入を増やそうとせず、人口減を受け入れるというのであれば、今後の学校の整備についても、選択と集中が必要になってくると思います。

産業や物流の配置であったり、今までの流れであったり、そういったものを踏まえて、どういったまちづくりをしていくかを考え、グランドデザインを示した上で、議論していかなければならないと思います。

#### 市長

人口の将来推計は行っていて、38万人から徐々に減っていき、特にこの10年は厳しい状況であるということがわかっています。

#### 教育長

中学校区単位で自分たちの学区をどうしていこうかということであれば、話をしているやすいので、面白い提案が出てくるのではないのでしょうか。

子どもの数が少ないから学校や校舎を減らすということではなく、どうすれば自分たちの地域を面白くできるかという観点からであれば、良い話ができるのではないのでしょうか。

#### 市長

本来はそうですね。子どもの数が多ければ良い学校で、子どもの数が少なければ良くない学校かと言えば、そんなことはないはずで、量よりも質ですね。

#### 教育長

たとえば神山小学校区では、児童数が多いから二つに分けてほしいということになる  
かもしれません。

#### 委員

今でも、保育園の中には木造の園舎のところもありますし、木造じゃなくても、ずいぶん園舎が古くなっているところが多くありますので、保育園も困っていると思います。

また、今は保育士不足でもありますので、小中学校と一緒に良くなるよということがあれば、保育士不足も少しは解消されるのではないのでしょうか。

#### 事務局

そういった現実的な問題を現場の方々はお抱えておりますので、各部から問題点を出してもらって、学校と融合させることでそれらの問題を解決することができるのかというところを内部で検討していきたいと思えます。

また、一宮市としての魅力を作る部分と粛々とやっていかなければならない部分がありますので、その点を意識してやっていかなければなりません。

#### 委員

私たちが考えていると、どうしても合理性の部分ばかりに目が行ってしまいますが、市民の方から見ると、魅力が感じられて、一宮市に希望が持てたというようなことをやっていかないと、市民の気持ちが付いていかないんじゃないかと思えます。

#### 市長

課題に前向きに、能動的に取り組んでいけるような旗印があるとよいですね。

#### 委員

近年は、保育の指針が変わってきて、教育的な狙いを持っていくことが重要となっています。預かるだけでなく、預かりながら教育もしていくということをPRしていくことが大事なのではないのでしょうか。

#### 事務局

その点については、教育委員会として考えていかなければならないところだと思います。

#### 市長

保育園で色々な体験をさせてあげられると良いですね。

#### 事務局

小中学校と保育園が一緒になれば、小中学生のお兄ちゃんお姉ちゃんたちはこういったことをやっているんだというのが見えるようになりますから、それだけでもずいぶん違うのではないのでしょうか。

#### 市長

ところで、保育士と幼稚園教諭の資格を両方取っている方はどのくらいいるのでしょうか。

#### 委員

ほとんどの人が両方取っているのですが、保育士資格だけとか幼稚園教諭の資格だけと

いう方もみえます。認定こども園は両方の資格が必要となるのですが、認定こども園で働けるという方は多いと思います。

#### 委員

私立幼稚園に通っている子も多くいますので、そういった子たちが小学校に入学するときのことも重要だと思います。

幼稚園と小学校が独自に連携をするというのは難しいですが、保小の連携ができれば、そこに幼稚園が入っていくということは可能だと思います。そして、それが実現できれば、幼稚園としては非常にやりやすくなると思います。私立幼稚園に通っている子も小学校に入るときには不安になっていると思いますので、小学校との連携が必要だということは一緒だと思います。

#### 事務局

その点についてはこれからしっかりと考えていきたいと思っています。

#### 委員

校舎は別でも同じ敷地内に特別支援学校があるという学校が近年は増えてきています。

まったく同じ教育は無理でも、同じ敷地にいることによって刺激を受けたり、良い関係が築けたりするので、一宮市でも特別支援学校を併設するということを考えていただければと思います。

#### 事務局

新しい学校を作るにあたっては、特別支援学級や不登校の子、医療的ケアが必要な子のことも考えていかなければならないので、今後、新しく作る学校にあたっては、そういった子たちへの支援をするための機能を充実させなければなりません。

#### 委員

大阪には医療的ケアが必要な子をどんどん受け入れている小学校があると聞いたことがあります。そういったところを参考にすると良いのではないのでしょうか。

#### 市長

一宮市でもそういった学校を増やしつつあって、現在、5校あります。

ただ、看護師の確保が大変なんですよね。

#### 教育長

そうですね。ちなみに、看護師は現在、4人います。

#### 市長

医療的ケアを行うためのスペースを保健室の中に確保するためにパーテーションが必要になることもあるんですよね。

#### 教育長

他の子と一緒に医療的ケアを行うことができる子もいれば、他の子と分けて行う必要がある子もいて、その子によって違うんですが、分けて行う場合にはパーテーションが必要になりますね。

**市長**

学校の施設改修をしていく際には、そういった配慮を最初から織り込んで進めていかなければなりませんね。

それでは、終了の時間となりましたので、今回は以上とさせていただきます。

**事務局**

次回の開催については、また追ってご案内させていただきます。よろしく申し上げます。

**市長**

長時間にわたりありがとうございました。